

## 事業報告

畜産のみならず本県の経済全体に深い傷跡を残した口蹄疫の災禍から4年が経過し、県を挙げて再生・復興に取り組む中、当事業団においては優秀種雄牛の早期造成を目的とした間接検定により、26年度までの2カ年で22セットの検定を終了した。

その結果、間接検定としては脂肪交雑基準値で国内歴代最高の成績を出した「秀正実」を始め「義美福」「忠高盛」「耕富士」等、今後の「宮崎牛」ブランド確立に大きな期待が持てる種雄牛を造成することができた。

このような中、県内の肉用牛頭数は27年2月現在249千頭と、口蹄疫発生前の85%に止まっており、一方では、肉用子牛価格は26年度の平均価格が580千円（売却、去勢・雌平均、税込）と、空前の高値で取引されている。

この要因としては、枝肉価格が堅調に推移していることと併せ、全国的な繁殖雌牛頭数の減少により肥育素牛が不足していることが挙げられる。

これら構造的課題に加え、配合飼料価格の高止まりや敷料の高騰、更にはTPP交渉の行方等の不安定要素を多く抱える中、当事業団はこれまで同様、優秀種雄牛の造成と優良凍結精液の製造・供給を柱として事業を実施した。

(1) 種雄牛造成事業については間接検定11セットを実施したが、中でも「味」に着目した県外精液を活用して造成された「安秀利」は小ザシに高い評価を得、「忠国桜」は脂肪交雑・枝肉重量ともに優れた市場性、将来性のある種雄牛との評価を得た。種雄牛候補牛（直接検定牛）については、「美味しい牛肉」の指標の一つとされるDNA解析による選抜も実施した。

(2) 高鍋・西米良の両種雄牛センターで種雄牛の飼養管理と凍結精液の製造・供給をこれまでどおり行ったが、凍結精液の供給本数は年度末に需要が大きく増加したこと等で、計画の108,000本に対し125,250本（115.9%）となり収益増に繋がった。中でも稼働2年目となる西米良センターは全体の55.4%となる73,259本を生産した。

(3) 近隣諸国で発生している口蹄疫は引き続き大きな脅威であることから、防疫レベルを引き上げるために高鍋種雄牛センターの駐車場の整備を行い、外部との区分を明確にするために消毒室を設置するなど体制の強化を図った。

また、不測の事態に備えて西都市尾八重の避難地以外の緊急避難先の確保に向けた県北、県南の現地確認を行った。

## 1. 業務概要

### (1) 肉用種雄牛の繫養管理

繫養状況

(単位：頭)

区 分	高鍋 種雄牛センター	西米良 種雄牛センター	計
期首頭数	21 (6)	20 (10)	41 (16)
期末頭数	32 (16)	20 (10)	52 (26)

\* ( ) 内は、検定済み種雄牛

### (2) 肉用種雄牛凍結精液の製造、仕入と譲渡等

区 分		実績値 (本数)	うち県外凍結精液
①期首在庫本数		97,133	1,294
②製造本数		132,219	—
③仕入本数		0	0
④譲渡本数	サブセンター	118,680	73
	試験研究機関	6,630	10
	県外	23	0
	計	125,333	83
	内訳		
	有償譲渡	117,076	82
	無償譲渡	8,257	1
⑤検査用本数 (協会)		984	0
⑥破損交換・廃棄等		6,610	0
⑦期末在庫本数		96,425	1,211

### (3) 現場検定牛および間接検定牛の導入と出荷

(単位：頭)

区 分	現場検定	間接検定	計
①期首肥育頭数	26	88	114
②導入頭数	118	0	118
③出荷頭数 (事故含む)	24	88	112
④期末肥育頭数	120	0	120

# 貸借対照表

平成27年 3月31日  
単位：千円

資 産 の 部			負 債 ・ 純 資 産 の 部			
勘 定 科 目		金 額	勘 定 科 目		金 額	
流 動 資 産	現 金	92	事 業 買 掛 金	液体窒素買掛金	2,098	
	預 金	普通預金		59,854		
		定期預金		250,635		
	小 計			310,582	小 計	
	事 業 売 掛 金	凍結精液売掛金	36,514	そ の 他 の 負 債	短期借入金	48,000
		液体窒素売掛金	751		預り金	548
	小 計		37,265		未払費用	28,501
	た な 卸 資 産	肉用牛凍結精液	68,709		未払金	14,832
		現場検定牛	84,724		未払消費税	7,082
		液体窒素	1,011		リース債務	605
		飼料	12,555	未払法人税等	71	
	小 計		166,999	小 計		99,639
	そ の 他 の 資 産	未収金	78,313	計		101,736
		立替金	3	固 定 負 債	長期借入金	39,290
		仮払金	9		退職給付引当金	78,685
小 計		78,324	リース債務		2,704	
計		593,170	預り寄託金		98,000	
			計		218,679	
固 定 資 産	有 形 固 定 資 産	建物	260,313	純 資 産	特別積立金	200,000
		構築物	105,897		設備更新積立金	100,000
		機械装置	1,050		繰越利益剰余金	221,652
		農用機械	29,912		(うち当期純利益)	(29,896)
		車輛運搬具	10,865			
		工具器具備品	94,402			
		リース資産	3,110			
		凍結精液保管器	10,069			
	減価償却累計額		△ 279,243			
	小 計		236,374			
	無 形 固 定 資 産	無形固定資産	5,963			
		小 計		5,963		
投資等その他の資産		6,560				
計		248,897	計		521,652	
合 計		842,067	合 計		842,067	

# 損 益 計 算 書

自 平成26年4月 1日 至 平成27年 3月31日

(単位：千円)

勘 定 科 目		金 額	
事業等 収益	肉用牛凍結精液売上高	249,713	
	現場検定牛売上	63,661	
	液体窒素売上高	7,356	
	宮崎県種畜再生基金事業補助金	102,419	
	家畜改良推進事業補助金	6,427	
	事業等収益計	429,576	
事業等 原価	種雄牛 造成事業 費	直接検定事業	47,974
		産肉能力検定促進事業費	29,124
		間接検定事業費	63,790
		種雄牛候補牛飼養管理業務費	37,193
		情報分析事業費	22,847
		計	200,928
	種雄牛管理事業費	24,987	
	凍結精液製造事業費	25,071	
	現場後代検定事業費	27,686	
	情報処理事業費	6,882	
	販売事業費	38,126	
	事業推進事業費	35,611	
	基礎雌牛調査事業費	2,266	
	事業等原価計	361,558	
事業等利益		68,018	
一般管理費		64,606	
営業利益		3,412	
営業外 収益	受取利息	53	
	雑収入	2,325	
	配合飼料奨励金	1,401	
	計	3,778	
営業外 費用	支払利息	946	
	堆肥処理費	102	
	計	1,048	
経常利益		6,142	
特別 利益	種雄牛早期造成引当金取崩益	29,000	
	計	29,000	
特別 損失	固定資産除却損	100	
	固定資産売圧縮損	5,075	
	計	5,175	
特別利益		23,825	
税引前当期純利益		29,967	
法人税等調整額		71	
当期純利益		29,896	